

配慮の視点	種の多様性への配慮 遺伝子の多様性への配慮	配慮項目	野生生物の移動を阻害する要素の排除
配慮事項	野生動物の移動ルートの確保		
配慮事例	移動ルート分断時のトンネル、横断橋による移動ルートの確保		

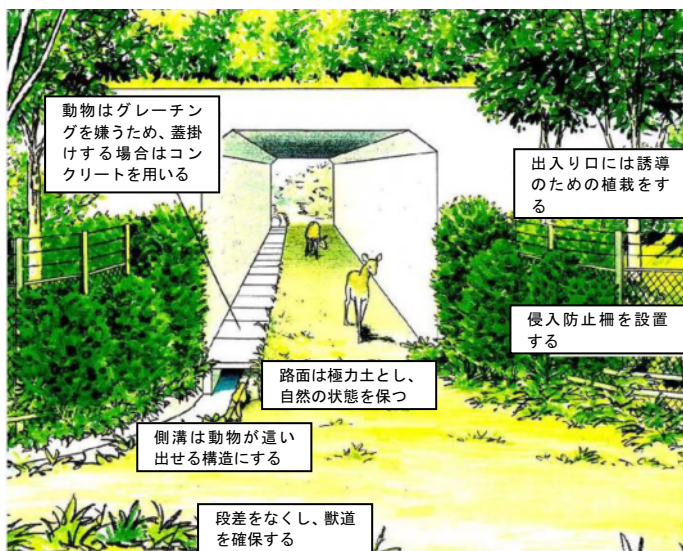
●トンネルによる移動ルートの確保

【解説】

野生動物の生息環境の場を分断する場合などに際しては、盛土区間では道路下に通路を確保し、移動路を確保することが生物多様性への配慮につながります。移動路には、必要に応じて誘導のための植栽や隠れ場所を設け、安全に横断できるような工夫を検討します。

【具体的な工法・配慮事項】

●大・中型野生動物のためのボックスカルバートの設置

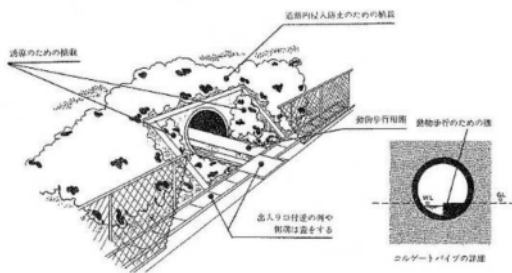


- ① 設置場所はそれまで使われていた獣道を調査して、それに沿って設置します。
- ② 利用する種を想定して大きさを検討します。

内容

出典:2

●小動物や爬虫類・両生類のためのコルゲートパイプの設置



コルゲートパイプの設計指針

横断溝の形式	横断溝の延長と最低限の口径との関係	
	横断溝の延長 (m)	最低限の口径 (cm)
○ コンクリート管	20以下	内径 100
	21~30	120
	31~50	140
□ 箱型横断溝	20以下	内径 100 高さ 75
	20以上	200 175
○ 曲面の鋼管	30以下	幅員 120 高さ 89
	31~50	180 125
	50以上	200 126

出典:1

- ① 設置場所はそれまで使われていた獣道を調査して、それに沿って設置します。
- ② 利用する種を想定して大きさを検討します。

留意点

- ・ 一般的には、構造が大きければ大きいほど多種類の動物に利用される可能性が高い。
- ・ シカの利用を期待する場合は、ボックスカルバートは幅員・高さ共に 4m以上が必要とされている。

参考資料

- 1 「エコロード 生き物にやさしい道づくり」 亀山章編、ソフトサイエンス社
- 2 「道路環境影響評価の技術手法 2007年改定版」(財)道路環境研究所